

梅雨だけど雨の多い地域の百名山めぐり 伊吹山・大峰山・大台ヶ原山

実施日 2016年7月2日(土)～4日(月)
 天候 3日間共概ね晴れ
 リーダー 涌井 良明
 参加者 涌井良明、石附智江、遠井兼策、関塚七海、峯川弘子、宮崎敏男 計6名
 費用 21,160円(東京起算正規)
 レンタカー-7,730円 宿泊代23,750円
 他3,070円 合計 55,710円
 タイム 7/2 岐阜羽島(8:30~8:50レンタカー)伊吹山DウェイP(9:40~50)伊吹山頂(10:30~55)伊吹山DウェイP(11:15~20レンタカー)洞川温泉(16:25)泊
 7/3 宿・H丸文(6:45レンタカー)行者還トンネル西側登山口(7:40~55)休・1400付近(8:40~55)奥駆道出合(9:10~20)弁天ノ森(9:45~47)休(11:00~08)弥山小屋(11:30)弥山(11:35~40)八経ヶ岳(12:15~15)弥山小屋(13:00~30昼食)弁天ノ森(14:45~50)奥駆道出合(15:05~12)行者還トンネル西側登山口(16:15~30レンタカー)大台ヶ原P 心・湯治館(17:40) 泊
 7/4 心・湯治館(8:00)日出ヶ岳(9:00~15)正木峠(9:30~40)尾鷲辻(10:18~30)大蛇峠分岐(10:55)大蛇峠(11:05~15)分岐(11:25~30)大台ヶ原山P(12:35~13:15レンタカー)岐阜羽島(17:20)

年間降水量日本一とも言われている地域の山へ雨の時期に出掛けたが、何と山では3日間共山では雨にも遭わずラッキー度満点の山行になった。これからのしっぺ返しがコワ〜イ！かも？

7/2 岐阜羽島から山岳道路の伊吹山DW(ドライブウェイ)を登り切って山頂P(スカイラスP)に。

標高1260m蒸し暑さも少なく、快適

な薄曇りだった。予想よりも人でも少ないようだ。『恋慕観音』脇から西登山道に入りゆるく登って行く。



直ぐに花の姿も目に付くようになるが、花のシーズンは始まったばかり、種類はそれ程多くないか？

それでもクサタチバナ、クサフジ、伊吹山固有種キバナノレンリソウ、イブキトラノオなどいかにも花の山の雰囲気満点である。花に気を取られながらのんびり登って山頂に、日本七高山霊場(近畿の七峰を言う)の大乗峰伊吹山寺や大きな休憩小屋の様々なキャッチが観光地であることも感じさせる。



周囲の眺望は良いが頻りにガスが流れて出たり入ったりだ。証拠の集合写真後、三角点(一等)



を確認。の一方通行の東登山道を下る。鮮やかなシモツケソウの赤、ゼンテイカの黄など楽しみつつ、わりと山道らしい道を下り車に戻った。

さて、奈良の洞川温泉までの長い移動だ。っと、伊吹山DWを過ぎてちょっと歴史に触れる寄り道で関ヶ原の古戦場の笹尾山(西軍石田三成陣跡)へ。しばし、1600年関ヶ原の合戦に想いを馳せる。

小早川の寝返りがなかったらその後の日本は？…なーんてね！



関ヶ原ICから名神〜…〜滋賀・京都・大阪・奈良と楽しいドライブ？で予定通りに奈良県天川村の大峰山系の山里の洞川温泉へ。いにしえの感じが漂う町並みに旅館が連なり、名物薬だらにすけを売る店も多いが、だらにすけ、ってなんだすけ？ 広ーい部屋、気持ち良い温泉、ゴー

かな夕食で初日も終了、すぐ下を流れる川音を聞きながら z z z …

7 / 3 行者さんの宿なので朝早くてもOKは有難かった。6時朝食で7時前には宿をスタートできた。狭グニャの酷道309号をグイングインと走って登山口になる行者還トンネル西側に。(運転担当Mさんお疲れ様)

路肩スペースの有料Pには数十台の先客もあり、やはりオオヤマレンゲに開花期になったので登山者の姿は多いか。

入口から僅かに平坦を進み、沢を渡ると登りになる、奥駆道出合まで続く急登である。抜かれることはあっても抜くことはないいつものペースとピッチでじっくりと楽しみながら？登る。ブナの多い展望はない道だが徐々に明るさも増してくると稜線の奥駆道も近くなる。

立派な石の標柱が立つ奥駆道出合に登り着くとまずはヤレヤレだ。いわゆる大峰山系の主稜線縦走路に出たわけだ。

ここから稜線歩きである、次のピークは弁天ノ森で辺りには雨の多さを物語る見事な苔が見られる。しばらくで再び登り道になって

行くが、今日の第二ラウンド、弥山への急登である。それでも木々を通して周囲の山並みも見え隠れしており、高さを感じられる登りだ。踏跡が多く入り乱れるジグザクを登り、棧道交りのを越して弥山小屋に到着する。小屋の周囲には実に多くの登山者がそれぞれにくつろいでいる。

取敢えずは弥山山頂へ、小屋前から5分程だ。社が鎮座する弥山からは、これから向かう八経ヶ岳が良い姿で招いている。小屋前へ戻って八経ヶ岳へ向かう、少し下って気分の良い鞍部の先に鹿除け

門があり、そこからオオヤマレンゲの自生地になる。何と道の両側所々に白く清楚なオオヤマレンゲが迎えてくれた。天然記念物指定のモクレン科の貴重な花で大峰の自生地が良く知られている。左右に目を奪われ



つつ登り、上の防護ネットを抜けると八経ヶ岳も近い。登り着いた山頂はわりと狭く眺望も良く、まさに大峰山脈の真只中の感じである。

近畿最高峰はさすがに風が冷たく休憩には不向きだったので10分程で山頂を

後にする。再びオオヤマレンゲを鑑賞しつつ弥山小屋に戻る。いくらか人も減った小屋前で遅めのランチにする。深田百名山でもある近畿最高峰に立ち、オオヤマレンゲも見頃、しかも雨もなく眺望まで楽しめてラッキーな山日和である。

食後は登山路を忠実に辿って下山である。見事な苔や眺望をこの山の良さに浸り歩く、登りに気付かなかった聖宝理源大師像の鎮座する聖宝ノ宿跡まで急下降、弁天ノ森へ緩く登り返して奥駆道出合からは一気に下降して行く。下り切った沢で顔を洗って4時過ぎには登山口へ戻った。がんばって登って下ったネー。オツカレサマー！

次は、大台ヶ原イクヨー！ってんで、トンネルをくぐって(勿論🚗)酷道309から国道169へ出て、川上村伯母谷から大台ヶ原DW(ドライブウェイ)へと進む。

すっかり快晴になって、登るにつれ周囲の眺望が開け大峰山脈始め大台ヶ原方



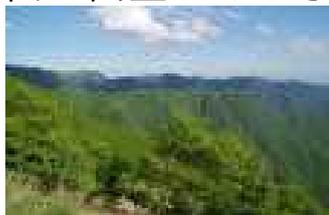
と登りになる、奥駆道出合まで続く急登である。抜かれることはあっても抜くことはないいつものペースと



近畿最高峰はさすがに風が冷たく休憩には不向きだったので10分程で山頂を



面の山並がくっきりと開けて素晴らしい。とても雨の多い地域とは思えないくらいである。まだまだ明るい5時半過ぎ、広い大台ヶ原P(=宿舎)に着く。



明日はここからハイクである。大台ヶ原唯一の宿泊施設にチェックイン、今日は我々だけの宿泊客だった。部屋の電気も消えず、風呂もシートもあって勿論2食付き山ヤには快適な宿である。

今日は二次会まで盛り上って明日に備えた。天気も持ちそうで有難い。

7/4 7時に朝食を済ませ、8時に東大台ヶ原周回コースに出発する。

当初予定の逆回りにして、まずは日出ヶ岳に向けてほぼ遊歩道の道を進む。朝の緑に輝る木漏れ日が嬉しい。整備された階段道が登りになって



富士山まで見えるとなっている展望台付きT字路で左へ進むと木道階段になり、登り詰めると日出ヶ岳(大台ヶ原山)である。三角点(一等)脇に展望台が建てられており、抜群の眺望が欲しいままである。



写真後、鞍部T字路に戻り、周回路へ入る。この先はしばらく木道(階段)が続くことになる。

正面の盛り上りへ階段を登ると夏雲が湧く青空の広がる明るい正木ヶ原へ出る。大台ヶ原のシンボル? 立ち枯れの木々がアクセントとなって特異な情景だがこれが魅力にもなっている。

尾鷲辻向かって展望台のような木道を下る、何



とも爽快だが、これも今日のこの青空によるところが大きいだろう。

山はやはり天気である。

尾鷲辻の東屋で一息ついて、神武天皇像が立つ牛石ヶ原で鹿を見て大蛇ヶ原へ。周回路分岐から10分、狭めの短い岩稜が大蛇ヶ原(展望台)に出る。鎖が張られてはいるがまさに



崖(崖)のてっぺんで思わず足がすくむ(高所恐怖症だもんね)。それでも皆で先っぽに立って集合写真、撮ったドロー!

分岐に戻り、山道らしい道を下ってシオカラ谷を吊橋で渡ると最後の急登があるが、歩き易い整備されているのでただ我慢すれば良い。でも嫌な登りだったね。

車に戻って手持ちの昼食を済ませてから、車中人となる。走っても走っても山の中といった風情の奈良県を走り抜け、

吉野から宇陀、伊賀そして亀山から高速で岐阜羽島駅へ。🚗返して予定は無事に完了。皆さん、いかがだったでしょうか? 雨も当然覚悟の日程だったが、3日間ともに奇跡の好天に恵まれて全て予定通り、私的の最上目には満足だった。

また、レンタカーの運転に協力いただいた方々にも大感謝です。(おかげでずいぶん楽をさせてもらいました)

これからもこぶし会でもう少しの間皆さんと一緒に山に行けたら嬉しいと思っています。またよろしくお願ひします。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・宮崎 敏男)

